

## 10月26日のウクライナ情報

安斎育郎

### ①独議員、ウクライナへの武器供与支持者に警告「自ら塹壕に行くべき」(2023 年 10 月 24 日)

独連邦議会「ドイツのための選択」党のライナー・ロスファス議員は、独誌 Deutschland Kurier のインタビューに対し、ウクライナ紛争は交渉を通じて解決されなければならないと、ウクライナへの軍事支援を支持する者はロシアとの戦闘で命を落とす可能性があるとの見解を語った。

「私はいつも、ウクライナへの武器供与を支持する人々に言っている。もしかしたら、あなた自身も前線に行って塹壕で爆破されるかもしれない。皆、あそこでどんなに恐ろしい戦闘が行われているのか、テレグラムで動画を見たことがあるでしょう」

ライナー・ロスファス(独連邦議会「ドイツのための選択」党議員)

ロスファス氏によれば、ウクライナ紛争は武力では解決できないという。同氏は、ロシアのプーチン大統領との交渉は不可能であるという議論には大きな欠陥があると考えており、そのような意見は、軍需品を供給するための口実にしかならないと指摘した。

「これはドイツでこれまでずっと、この数十年にわたって言い続けてきたことと完全に矛盾している」とロスファス氏は結論づけた。

これよりも前、ゲルハルト・シュレーダー独元首相は現地紙ベルリーナー・ツァイトゥングのインタビューに応じた中で、米国は 2022 年、ウクライナがロシアとの間で進めていた和平交渉の継続を許さなかったと指摘した。



<https://sputniknews.jp/20231024/17524677.html>

### ②ウクライナ・イスラエルを巡るバイデン氏のアプローチは「戦争屋の狂気」=トランプ氏(2023 年 10 月 24 日)

米国のドナルド・トランプ前大統領は 23 日、ニューハンプシャー州で行われた支持者集会で、イスラエル情勢の悪化とウクライナ危機に対するジョー・バイデン現大統領のアプローチを「戦争屋の狂気」と非難した。

「ジョー・バイデンの演説は、イスラエルに対するグロテスクな裏切りであり、米国の優先順位を最下位に追いやるような混乱を招く、支離滅裂な戦争屋の狂気だ」

トランプ氏によれば、バイデン氏は米国人に対し、イスラエルを支援したければ「ウクライナでの代理戦争に白地小切手を与えなければならない」と述べた。

また、トランプ氏は「ひねくれ者のジョー・バイデンは、これまで大統領執務室で行われた中で、最も危険で希薄な演説をした。大失敗だった。演説そのものだけでなく、言葉もひどかった」と話した。

バイデン大統領は 19 日、イスラエルおよびウクライナの情勢について国民に向けて演説した。20 日には、イスラエルとウクライナへの支援を含む予算を承認するよう要請した。このうち 614 億ドル(9 兆 2010 億円)をウクライナ支援に充てるよう要求した。一方で、ケビン・マッカーシー氏が 10 月 3 日に辞任したため、下院は議長不在で十分に機能しておらず、議員らはまだこの要請を検討することができていない。



<https://sputniknews.jp/20231024/17524677.html>

### ③【視点】米国、中東に防空戦力を派遣 専門家「その場しのぎの対応がエスカレーション招く」(2023 年 10 月 24 日)

米国防総省は、イスラエル・パレスチナ紛争の激化を背景に、中東地域の米軍拠点などに終末高高度防衛ミサイル(THAAD)や防空システムパトリオットなどを展開すると発表した。スプートニクは緊迫化する中東情勢をめぐる米国の動きについて、過去に米国防長官室で安全保障政策アナリストを務めたマイケル・マルーフ氏に話を聞いた。

10 月 7 日、ガザ地区を実効支配するイスラム組織・ハマスはイスラエル南部と中部に向けて突如ミサイル攻撃を行い、一部の地上部隊がイスラエル側に越境攻撃した。ハマスの奇襲攻撃を受け、イスラエル軍はガザ地区への空爆などの報復作戦を開始。第四次中東戦争以来 50 年ぶりとなる正式な「戦争状態」への移行を宣言した。これまでに双方の死者は合わせて 6000 人を超えた。

#### 対空ミサイルを追加配備

ロイド・オースティン米国防長官は 21 日、中東に THAAD とパトリオットを追加で展開すると発表した。地域における米戦力の防衛力を強化するためとしている。また、「イスラエル防衛を支援することになる」とも加えている。

中東ではイスラエル・パレスチナの問題が周辺諸国に広まりつつある。イスラエルの報復攻撃はアラブ諸国の反感を招いただけでなく、レバノン南部のヒズボラやシリアの武装勢力などとイスラエル軍の小規模な撃ち合いも起きている。イスラエルがガザ地区への本格的な地上作戦を始めれば、同国は北部の「第 2 戦線」にも対応する必要があるが出てくる。

こうしたなか、ヒズボラやイラン、シリアのシーア派組織と繋がりが深いとされるイランをめぐる国際関係の緊張も高まっている。イスラエルとその後ろ盾となっている米国は、以前にも増してイランとの対立を深めている。

### イランへのメッセージ

マルーフ氏は、相次ぐシリア、イラクの民兵組織からの駐留米軍へのロケット弾やドローンによる攻撃は、米国とイランの緊張が高まっている証拠だと語る。そして、今回の対空防衛システムの追加配備は、米国からイランへのメッセージと位置づけた。

「こうした動きはバイデン米大統領がイスラエルのネタニヤフ首相に、米国がイスラエルを強く支援すると伝えるのと同時に起こっている。つまり、イランに『勝負が始まった』と伝えることは、何か重大な発展を意味するかもしれない」

マイケル・マルーフ(元米国防長官室・安全保障政策アナリスト)

### 危険なエスカレーション

マルーフ氏は、米国の戦略の問題点は、過去の経緯の考慮や分析なしで目先の問題だけに反応しようとする、いわば「その場しのぎ」の対応にあるという。

「米国はなぜこうなっているかの全体像をみようとしなさい。彼らは知らないか、差し迫った脅威を前にそれを無視しているかのどちらかだ」

マイケル・マルーフ(元米国防長官室・安全保障政策アナリスト)

中東の地理的条件も重要な要素だ。米軍はイランの周辺に 35 もの基地を持っている。ペルシャ湾を挟んで対岸のバーレーンには米第 5 艦隊の本部もある。対立する両勢力は物理的に非常に近い距離にあり、エスカレーションした際の飛び火のリスクも大きいということになる。

### 混乱のなかで

マルーフ氏は「これはバイデン政権が推し進めてきたことで、ウクライナでも見た光景だ」と続ける。そして、メキシコからの不法移民問題を引き合いに出し、「米国は自分の国境ではなく、他国の国境を守るために対外戦争を行っている」と指摘する。

バイデン政権は 1050 億ドル(15.7 兆円)の対外軍事支援予算を議会に要請している。これはウクライナとイスラエル向けの支援が大半となっている。しかし、34 兆ドル近い債務の問題、予算審議をめぐる与野党対立など問題は山積みだ。しかも、解任されたマッカーシー前下院議長の後任が決まらず、議会は機能不全に陥り、政治的混迷が極まっている。

「米国はまさに混乱の真っ只中だ。債務が 34 兆ドルに達し、返す手段もない中で経済が混乱しているのは言うまでもない。バイデン政権は全体として、米国民のみならず、全世界に対して本当に『多くのこと』を与えてくれた」

マイケル・マルーフ(元米国防長官室・安全保障政策アナリスト)



<https://sputniknews.jp/20231024/17521902.html>



#### ④平和はイスラエルだけでなくパレスチナにも必要＝露ラブロフ外相(2023年10月24日)

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は、ロシアは常にイスラエルの安全保障へのコミットメントを強調しており、イスラエルには平和が必要だが、パレスチナ人にも平和が必要だと述べた。

ラブロフ外相は、23日に行われた南コーカサスをめぐる「3 プラス 3」会合後、これを総括した記者会見で中東情勢について言及。「プーチン大統領は、中東に関する国際演説の中で、イスラエルの安全保障に対する我々の特別なコミットメントを一貫して強調してきた」と説明した。

「我々は、イスラエルがどのような地政学的状況の中で発展しているかを理解している。イスラエルに平和が必要であることを理解している。しかし、平和は隣国にも必要だ。これにはシリア、レバノン、パレスチナも含まれる」

セルゲイ・ラブロフ(ロシア外相)

ラブロフ外相は、ロシアはパレスチナ・イスラエル紛争の解決を促す用意があり、ロシアはそのすべての当事者と正常な関係にあると付け加えた。

ロシア、イラン、トルコ、アゼルバイジャン、アルメニアの外相は23日、イランの首都テヘランで「3 プラス 3」形式の会合を行った。共同声明では、ガザ地区の民間人がしばしば標的となっている攻撃を止める必要性が強調された。

#### イスラエル・パレスチナ紛争の激化

10月7日、ガザ地区を実効支配するイスラム組織・ハマスはイスラエル南部と中部に向けて突如ミサイル攻撃を行い、一部の地上部隊がイスラエル側に越境攻撃した。ハマスの奇襲攻撃を受け、イスラエル軍はガザ地区への空爆などの報復作戦を開始。第四次中東戦争以来50年ぶりとなる正式な「戦争状態」への移行を宣言した。これまでに双方の死者は合わせて6400人を超えた。

ハマスの奇襲後、イスラエル軍は30万人の予備役を動員。また、議会では与野党が戦時下での挙国一致内閣を樹立させた。米国からの弾薬支援も受けるなど、本格的な地上作戦を準備しているとされる。

イスラエルのガラント国防相はこれまでに「ハマスは地球上から一掃される」と徹底的な報復を予告。イスラエル外務省も「ガザ地区で戦略的目標をすべて達成するまで軍事作戦を継続する」と妥協を一切許さない強硬姿勢を示している。

ロシアは双方に即時停戦と交渉の再開を呼び掛けている。ウラジーミル・プーチン大統領はこれまでに、紛争を解決するためには、パレスチナの独立主権国家樹立に関する国連安全保障理事会の決定を履行する必要があるとの考えを示している。



<https://sputniknews.jp/20231024/17523990.html>

## ⑥プーチン大統領の訪中に焦る米国「世界覇権国」の称号に陰り(2023年10月24日)

英紙「デイリー・エクスプレス」のコラムニストであるポール・ウィザース氏は、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領の訪中は、米国に大きなダメージをもたらしたとの見解を記した。

「米国は深刻な危機に瀕している。ウラジーミル・プーチン大統領と習近平国家主席が協力して世界のパワーバランスを変えようとしているため、米国は世界覇権国の地位を奪われる可能性がある」

ポール・ウィザース(英紙「デイリー・エクスプレス」コラムニスト)

ウィザース氏はまた、プーチン大統領の訪中は「国際舞台でウクライナや台湾などの問題を解決しようとする米国や西側諸国にとって、重大な問題を引き起こす」という英専門家アンドリュー・サンダース氏の意見も引用した。

サンダース氏は「ロシアと中国の関係がますます緊密になることにより、米国が最大の被害者となる可能性がある」と指摘した。

また、中東情勢に関連して「サウジアラビア、イラン、エジプトを含めた BRICS の拡大も、世界的なパワーバランスの転換に向けた大きな動きとなるだろう」と補足した。

中国訪問中、プーチン大統領は米国に対して、他国を尊重し、妥協点を見出すことを学ぶ必要があり、そうすれば誰も抑圧する必要はなくなると述べた。プーチン大統領は一帶一路フォーラムへの出席のため、10月17～18日の日程で中国・北京を訪れた。



<https://sputniknews.jp/20231024/17523990.html>

## ⑥ロシア黒海艦隊、ウクライナ軍の水上ドローン3隻を撃破(2023年10月24日)

ロシア黒海艦隊は24日、黒海北部でウクライナ軍の無人艇(ドローン)3隻を撃破したと発表した。

「24日午前4時(日本時間同日午前6時)ごろ、監視装置によって黒海北部でウクライナ海軍の無人艇3隻を発見した。その海域で対破壊工作ミサイル・爆弾システムによってこれらに砲火が加えられた」

### ロシア海軍黒海艦隊

クリミア半島のロシア海軍の拠点、セバストポリ港の外側では、機雷対策や妨害工作対策が行われているという。

ウクライナ軍はこれまでも黒海でロシア軍への攻撃の試みを行っている。17 日には無人艇を露空軍が撃破、10 月初旬にはズメイヌイ島近くで 3 隻の艦艇と揚陸部隊を撃破している。

このほか、クリミア半島へのドローン攻撃や工作部隊侵入の試みなども盛んに行っている。また、ウクライナ軍は 7 日、攻撃型に改造した対空防衛ミサイル S200 でミサイルを発射。この際はロシアの対空防衛システムで撃墜された。



[https://sputniknews.jp/20231024/3-17526429.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20231024/3-17526429.html?rcmd_alg=collaboration2)

## ⑦国内最大規模の日米共同演習「レゾリュートドラゴン」 地元反対に司令官は(2023 年 10 月 24 日)

日本国内最大規模の日米共同軍事演習「レゾリュートドラゴン 23」が、全国各地で今月 14～31 日の日程で行われている。24 日には陸上自衛隊・石垣駐屯地(沖縄県石垣市)で陸上自衛隊、米海兵隊の司令官による記者会見も行われた。安全性に懸念のある輸送機オスプレイの運用などを背景に、一部で地元の強い反対を受けるなかでの実施となった。

### 不屈の龍

レゾリュートドラゴンは直訳すれば「不屈の龍」を意味する。防衛省などによると、陸自と米海兵隊の共同作戦能力を向上が目的としており、2021 年の第 1 回から毎年行われている。

今年は日米あわせて約 6400 人が参加する。実施範囲は広く、北海道の計根別(けねべつ)飛行場、矢臼別(やうすべつ)演習場のほか、熊本県の健軍駐屯地、大分県の日出生台(ひじゅうだい)演習場、鹿児島県の霧島演習場、沖縄県の各自衛隊施設、在日米軍基地などとなっている。

訓練内容もさまざまで、離島防衛を想定した訓練から、ウクライナへの供与で有名となった多連装ロケット砲「ハイマース」の実弾演習、米製輸送機オスプレイによるけが人の輸送訓練なども含まれている。

### 地元では反対も

演習実施場所の周辺住民からは反対の声も上がり、一部では抗議デモも行われている。特に、死亡事故や重大トラブルが相次ぐオスプレイへの懸念は大きい。

19 日にはレゾリュートドラゴンの一環で、陸自所属のオスプレイが沖縄県内における初めての飛行を行い、新石垣空港に着陸した。沖縄県は、防衛省に新石垣空港の使用自粛を要請していたが、飛行



は強行された。玉城デニー知事はオスプレイの飛来に「県の自粛要請を顧みることなく着陸したのは残念」とコメントしている。

さらに同日、鹿児島県の徳之島では米軍所属のオスプレイ 1 機が緊急着陸する事案が発生。演習に参加していた期待かどうかは不明だが、「訓練飛行中に警告表示が出たため着陸した」としている。幸いなことにけが人や民間機への影響はなかったものの、オスプレイの安全性への懸念や米軍の運用のあり方に対する不信感を増幅させる形となった。

#### 自衛隊の説明は

共同通信などによると、24 日には陸自石垣駐屯地で、九州・沖縄を管轄する陸自トップの山根寿一・西部方面総監と米海兵隊第 3 海兵機動展開部隊のジェームズ・ビアマン司令官が会見した。

山根総監は地元の反対の声があるとの指摘には、丁寧な説明を心がけると述べるにとどめた。

「安保環境を考えると、日米連携を高め、強固なメッセージを出していけないといけないのも事実。訓練が国民の皆様の安全・安心につながる。皆様の心配、懸念を少しでも解消できるよう引き続き丁寧な説明を努めたい」

山根寿一（陸上自衛隊西部方面総監）

ビアマン司令官も「日米同盟の義務を果たすための即応性を確保する上で訓練は重要。日米同盟をより強固にするのが必要不可欠だ」と述べた。



<https://sputniknews.jp/20231024/17530481.html>

#### ⑧ガザで今起っていること(2023 年 10 月 24日)

[https://twitter.com/hashtag/Gaza Genocide?src=hashtag click](https://twitter.com/hashtag/Gaza%20Genocide?src=hashtag_click)

さまざまな映像が入っています。ご覧下さい。

<https://twitter.com/jacksonhinklle/status/1716540374708019274?s=09>

[https://twitter.com/AIs of Draoon/status/1716579478875623872?s=09](https://twitter.com/AIs%20of%20Draoon/status/1716579478875623872?s=09)

### ⑨ウクライナ、ロシアで暗殺関与か CIAが訓練—米紙(2023年10月24日)

米紙ワシントン・ポスト(電子版)は23日、ロシアの侵攻を受けるウクライナの情報機関・保安局(SBU)が、米中央情報局(CIA)の訓練を受け、ロシアで起きた暗殺事件に関与していたと伝えた。昨年8月に右派思想家アレクサンドル・ドゥーギン氏の娘ダリヤ氏が殺害された事件では、SBUの協力者によって、爆弾の材料が猫用キャリーバッグに入れられ、車でロシアに持ち込まれたという。



<https://www.jiji.com/jc/article?k=2023102400936&g=int>

### ⑩ウクライナの軍事委員は、歓声を上げながら獲物を狙う(2023年10月24日)

※投稿者コメント:彼らが捕まるのは主に村や小さな町である。ウクライナ人-命を守れ！



<https://twitter.com/Z58633894/status/1716802415817810315?s=09>

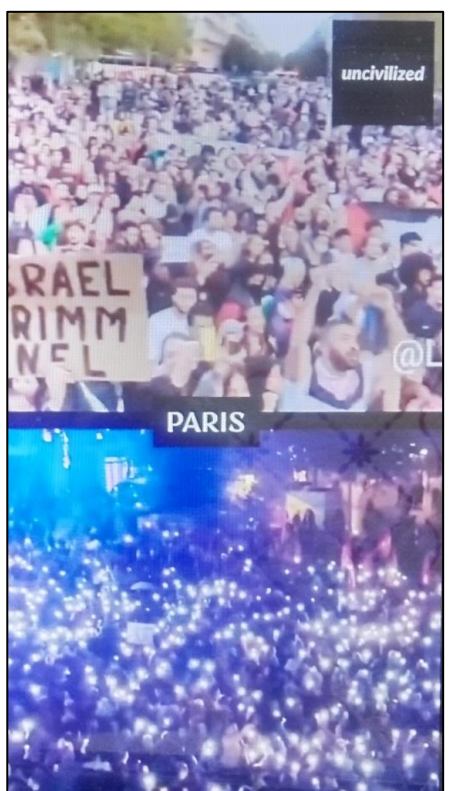




# ①全世界がパレスチナとともに、イスラエルのテロリズムに立ち向かっている！（2023年10月24日）

世界各地のイスラエルに対する反対の声です。

<https://twitter.com/i/status/1716525222617067759>







## ⑫小寺隆幸さんの情報を拡散します(2023年10月25日)

<https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/ADTMY2QAATKpZThQzgX ONIbAAM>

※安斎注:小寺さんは「ウクライナ情報」の読者であるとともに、自らも情報を収集・分析して、積極的に発信している研究者です。

### ⑬イスラエル軍への従軍を拒否したユダヤ人青年(2023年10月16日)

イスラエル軍への従軍を拒否したユダヤ人青年の投獄に抗議するユダヤ人ラビの逮捕。

何の罪もないユダヤ人たちが、シオニストの手先となり、自分たちが関与していない紛争に巻き込まれている現実。

まるでウクライナ。

<https://twitter.com/i/status/1713588964152762593>



[https://twitter.com/bs\\_fbo/status/1713588964152762593?s=09](https://twitter.com/bs_fbo/status/1713588964152762593?s=09)



### ⑭マクガヴァン in ジャッジング・フリーダム(2023年10月24日)

ウクライナに必要なものを供給できないのに、ウクライナとイスラエルに供給しようとしている。こんなことは見たことがないが、議会は彼に 1000 億ドルを与えるだろう。ラリー、議会の戦争党は彼にその金を渡すだろう。彼らは中国から 1000 億ドルを 5%で借りるだろう。中国人がアメリカへの投資に興味があるかどうかはわからない。どこかで借りて、その利子を払うためにさらに金を借りるだろう。彼らは、どんな企業や家庭でもできないようなことをして、逃げおおせると思っている。

それはお金の問題ではない。愚かな戦争に資金を提供するために金を借りるのは十分悪いことだが、バイデンもまた、ウクライナで負けたくないという個人的な利害があり、金の信奉者のように見える。だから彼らはできることをしようとしている。

あえて言えば、私はガザのパレスチナ人の運命を心配している。ハマスとイランは、ここで火種を煽るつもりだろう。もっと大きな火種になりかねないし、それを防ぐために我々は努力すべきだ。

マクレガー大佐はトルコについて警告している。我々と同じように NATO に加盟しているにもかかわらず、彼らは火種を探している。

マクレガーによれば、彼らはイスラエルよりも巨大で洗練された軍隊を持つ獰猛な戦士だという。マクレガーはまた、イスラエル軍の半分が予備役で、ゲリラ戦の訓練を受けていないと指摘している。





<https://twitter.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1716379826251288726?s=09>

### ⑮ウクライナはアメリカのユダヤ団体にコンタクト(投稿日:2023年10月22日)

※投稿者コメント:鳥肌が立った箇所① ウクライナはロシアと距離を取りアメリカに近づくために米ユダヤ人団体 ADL に接触していた。ユダヤ系のゼレンスキーがイスラエルに連帯を示した背景がこれ。

<https://twitter.com/i/status/1716088784272683114>



<https://twitter.com/verde925/status/1716088784272683114?s=09>